

報道関係者各位

2011年10月14日

森ビル株式会社

「ホワイトスペース特区」の認定を受け、六本木ヒルズで実証実験を開始 ～東京国際映画祭での利用を皮切りに、震災時の情報発信にも活用を検討～

森ビル株式会社は、地上デジタル放送化に伴い空白が生じた周波数帯を活用できる「ホワイトスペース特区」の第2次事業者に選定されたことを受け、六本木ヒルズで開催される「第24回東京国際映画祭」(10月22～30日)にあわせて、10月14日よりエリア限定放送の実証実験を開始いたします。六本木ヒルズでの実証実験は、職住遊商など多様な機能を持った複合施設においてホワイトスペースが利活用される初めての事例となります。

映画作品やイベントの様子など最新情報をリアルタイムに発信

実証実験の皮切りとして、10月22日より六本木ヒルズで開催される「第24回東京国際映画祭」と連動しエリア限定放送を開始します。オープニングのグリーンカーペットの様や、監督インタビュー、記者会見、舞台挨拶の様子など、日々アップデートされる映画祭の最新情報を放映予定です。映画祭会場外にいても、六本木ヒルズ施設内であれば、イベントの様子などを施設内のモニターやワンセグチューナー搭載の受信端末(携帯電話など)でリアルタイムに見ることもできます。ワンセグ視聴の際に必要なチャンネルのチューニングは、施設内に設置するフライヤーに記載したQRコードを活用することで容易操作いただけるよう工夫しました。*

また、同チャンネルを利用することで、従来、配線などの課題が多かった施設内(映像媒体)における映像配信についても電源と受信アンテナがあれば場所を選ばず映像を映し出せるため、今回は臨時でモニターを増設しています。

※機種によっては対応していない場合もあります

「東京国際映画祭」に合わせた実証実験概要

放送期間: 2011年10月14日(金)～10月30日(日)

チャンネル: 11

チャンネル名: OCTOBER FILM CHANNEL

放送エリア: 六本木ヒルズ内低層部、展望台など

協力会社: 株式会社ヨーズマー、株式会社ミライト・ホールディングス



「ホワイトスペース特区」とは

地上波デジタル放送化に伴い、アナログ放送の停波及びデジタル放送のチャンネル整理により、空白が生じる可能性のある周波数帯のことを「ホワイトスペース」と呼びます。この「ホワイトスペース」にて地域限定の電波を活用し新規ビジネスを総務省と共に模索する事業を「ホワイトスペース特区」と呼び、事業者はエリアを限定した放送の先行利用(実証実験)が許されます。当社は2011年4月、総務省より「ホワイトスペース特区」2次事業者に選定され、当社の事業エリアである六本木、表参道などにおけるホワイトスペース活用の可能性を検討しています。

エリア限定放送実証実験の初段階では、六本木ヒルズの多彩なアート、文化イベントを活用。新しいエリアメディアの誕生による「文化と芸術」のインキュベーションや、各施設の集客力を活かし、施設情報と併せて近隣地域情報を積極的に発信することで、周辺地域も巻き込んだ街全体の活性化も目指してまいります。

<本件に関するお問い合わせ先>

森ビル株式会社 広報室 田澤、難波

TEL:03-6406-6606

FAX:03-6406-9306

E-mail:koho@mori.co.jp

ホワイトスペース特区 今後の展開

参考資料

森ビル株式会社 2011年10月14日

■ 複合都市 六本木ヒルズでの活用例

今回の「ホワイトスペース特区」の選定を受け、六本木ヒルズにおいて、地域コミュニティを巻き込んだ情報発信の仕組みを検討しています。森美術館や展望台、アリーナ等、リアルスペースの「場」を提供するだけでなく、ホワイトスペースを有効に活用し、関係する多くの方々と一緒に魅力溢れる都市づくりの一助となる放送コンテンツの企画を検討しております。六本木ヒルズで行われるイベントや店舗情報の配信だけでなく、震災時の活用や、また、エリアの特性でもある外国人コミュニティへの情報発信など、様々な可能性を検討してまいります。

六本木ヒルズの多彩なアート・文化イベント例

<p>東京国際映画祭</p>  <p>日本唯一の国際映画製作者連盟公認の国際映画祭として日本の映画産業、文化振興に大きな足跡を残してきました。</p>	<p>六本木アートナイト</p>  <p>アートと出会い、人と出会い、驚きと出会う。その夜、六本木の街は巨大なキャンパスになります。『六本木アートナイト』の開催です。</p>
<p>スカイ アクアリウム</p>  <p>“空の世界=眺望”と“水の世界=アクアリウム”が掛け合う幻想的な空間が広がります。</p>	<p>MAM プロジェクト</p>  <p>森美術館が世界各国の才能豊かな若手アーティストを応援するプロジェクト・シリーズ。</p>

<p>防災面からの活用</p> 	<p>ex. 災害時活用</p> <p>逃げだす街から逃げ込める街へ。東日本大震災時にも多くの市民を要した六本木ヒルズにおいて、被災時のホワイトスペース活用を試みます。緊急情報のライブ中継や、各種避難者向け情報を有事の際や防災訓練時において、提供する予定です。</p>
<p>期間限定イベントでの活用</p> 	<p>ex. 東京国際映画祭</p> <p>六本木ヒルズでは左図に表記したように、催事に応じて様々なイベントの取り組みが繰り返されます。たとえば「東京国際映画祭」、国内外の多くの有名人が一同に集まるこの取り組みにおいて、ホワイトスペースの活用実験を行います。</p>
<p>定常的イベントでの活用</p> 	<p>ex. 森美術館展覧会</p> <p>六本木ヒルズの最高階には日本が世界に誇る、美術館、展望台、図書館などがあります。これらの施設イベント内において、現代美術の映像提供や、作家紹介などをホワイトスペースを活用して来訪者に提供するなども検討しています。</p>

防災面での活用 ~2012年度の震災訓練で実験予定

2012年3月に実施する当社の震災訓練において、実証実験を行う予定です。当社の街づくりにおけるミッションのひとつ「安全・安心」を補完する役割として、帰宅困難者や被災者に対し、エリア限定放送を用いた、情報提供システムの可能性を探っていきたくと考えています。

■ ホワイトスペース特区 他エリアへの展開予定

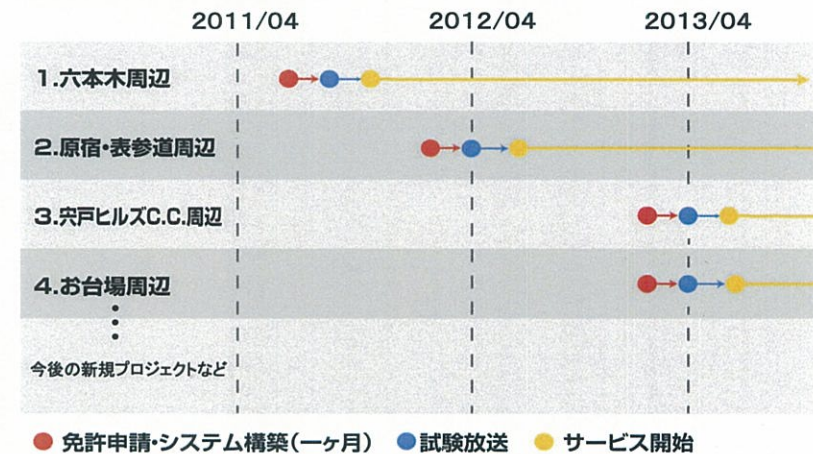
当社では、今回認定されたホワイトスペース特区事業についても、街づくりの一端としての活用を目指し、当社の様々な事業エリアでの展開を検討しています。異なる顧客や環境を持つそれぞれのエリアに合わせたコンテンツを提供し、街(エリア)の魅力や価値の向上とともに、事業化の可能性を検証してまいります。

<対象エリア>

- 六本木ヒルズ
- 表参道ヒルズ、ラフォーレ原宿
- 尖戸ヒルズ
- ヴィーナズフォート

スケジュール

※スケジュールは変更になる場合があります。



～震災時の新たなツールとして「六本木ヒルズ震災訓練(3/9)」で試験運用～
エリア放送を活用した
森ビル独自の災害情報提供システムを構築

森ビル株式会社は、震災時にも有用な情報伝達手段として、エリア放送※1を活用した独自の災害情報提供システムを構築しました。帰宅困難者や被災者に対する情報提供ツールとして、2012年3月9日(金)に六本木ヒルズで実施する震災訓練において試験運用を行います。

エリア放送(フルセグ・ワンセグ)は、独自に与えられた周波数を利用した放送のため、携帯電話やインターネット通信などと異なり、回線の混雑や断線などのトラブルもなく、輻輳(ふくそう)しない情報伝達手段です。この放送は、六本木ヒルズの外構部、商業スペース等の共用部など、限定されたエリアにおいてのみ配信されるため、その時そのエリアにいる人達にとって有効な情報を提供できるのも特徴です。また、ワンセグ機能をもつ携帯電話、スマートフォン、館内に臨時設置するフルセグ対応モニターのほか、インターネット通信も融合したシステムのためパソコンのWEBなど複数のメディアから同様にご覧いただけます。

なお情報は、六本木ヒルズのエリア特性に合わせ、日本語、英語の二ヶ国語で対応します。



表示画面イメージ [左]エリア放送(フルセグ) [中] エリア放送(ワンセグ) [右]WEB

エリア放送(フルセグ・ワンセグ)で提供する情報 例 ※英語、日本語の二ヶ国語で提供

- ① 森ビル震災対策本部からのライブ放送
- ② 六本木ヒルズ内施設情報
避難・救護案内、備蓄品(非常食・水・毛布等)配給場所、使用可能トイレなど
- ③ 周辺の交通情報
交通情報(六本木駅、麻布十番駅、乃木坂駅、都バス、周辺道路の混雑状況など)
- ④ 六本木ヒルズの安否伝言検索
安否伝言検索システムに登録された方の情報検索・閲覧

※1 エリア放送(フルセグ・ワンセグ)とは、「ホワイトスペース特区」を活用した実証実験です

地上波デジタル放送化に伴い、アナログ放送の停波及びデジタル放送のチャンネル整理によって生じた空白のある周波数帯が「ホワイトスペース」です。この「ホワイトスペース」にて地域限定の電波を活用し新規ビジネスを総務省と共に模索する事業を「ホワイトスペース特区」と呼び、森ビルは2011年4月に総務省より2次事業者として選定され、エリアを限定した放送の先行利用(実証実験)が許可されています。

<本件に関するお問い合わせ先>

森ビル株式会社 広報室 田澤、竹内

TEL:03-6406-6606 FAX:03-6406-9306 E-mail:koho@mori.co.jp

ホワイトスペースを活用したエリア放送(フルセグ・ワンセグ) 六本木ヒルズ 震災放送

■ ホワイトスペース特区とは

日本国内において電波は総務省の管理の下、周波数ごとに事業者分配到り、テレビ放送などに利用されています。「ホワイトスペース」とは、地上波デジタル放送化に伴い、アナログ放送の停波及びデジタル放送のチャンネル整理により、空白が生じる可能性のある周波数帯のことです。「特区」とは、この「ホワイトスペース」にて地域限定の電波を活用し新規ビジネスを総務省と共に模索する事業のことであり、エリアを限定した放送の先行利用(実証実験)が許されます。

■ エリア放送(フルセグ・ワンセグ)

ホワイトスペースを利用したエリア放送(フルセグ・ワンセグ)です。



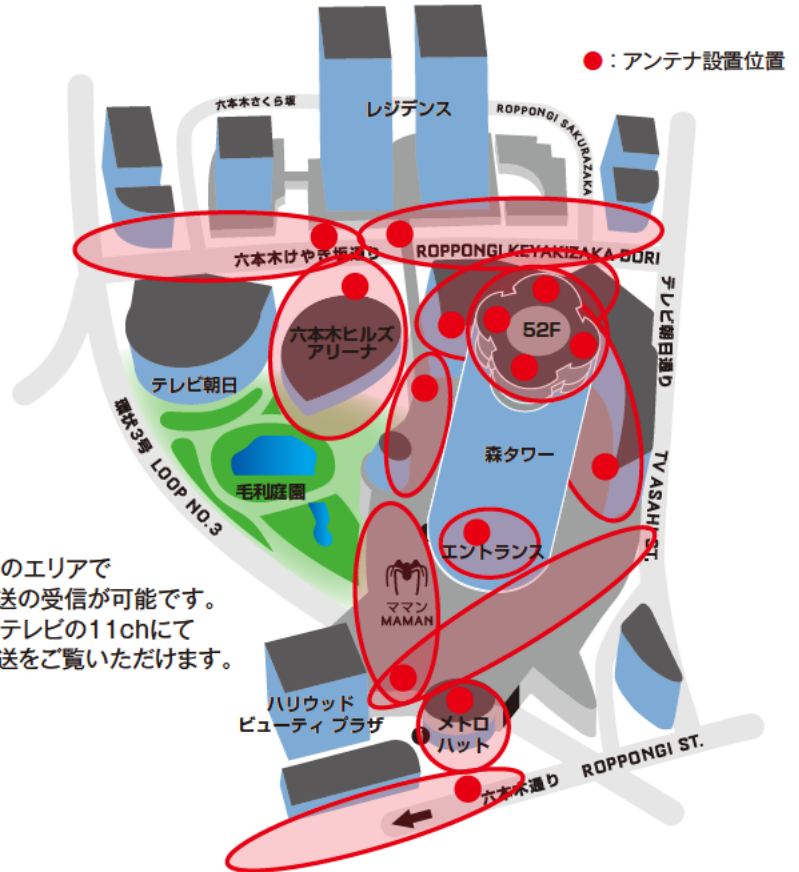
アンテナ設置例



エリア放送画面



エリアフルセグ放送館内臨時モニター設置例



■ 六本木ヒルズ震災放送提供情報(例)

ライブ放送

震災対策本部からのライブ放送

安否伝言検索

六本木ヒルズの安否伝言検索システムに登録された方の情報を検索・閲覧することが可能。

交通情報

六本木駅: 日比谷線・大江戸線情報
麻布十番駅: 南北線・大江戸線情報
乃木坂駅: 千代田線情報
バス: 都バス・ちいバス情報
首都高: 首都高情報
道路: 六本木通り・外苑東通りの情報

施設情報

避難所: 避難・救護所案内
配給: 非常食の配給案内
トイレ: 使用可能トイレ案内
宿泊: 一時宿泊の施設案内
医療: 病院・医療情報
行政: 港区・警察・消防等
その他: その携帯充電場所案内等

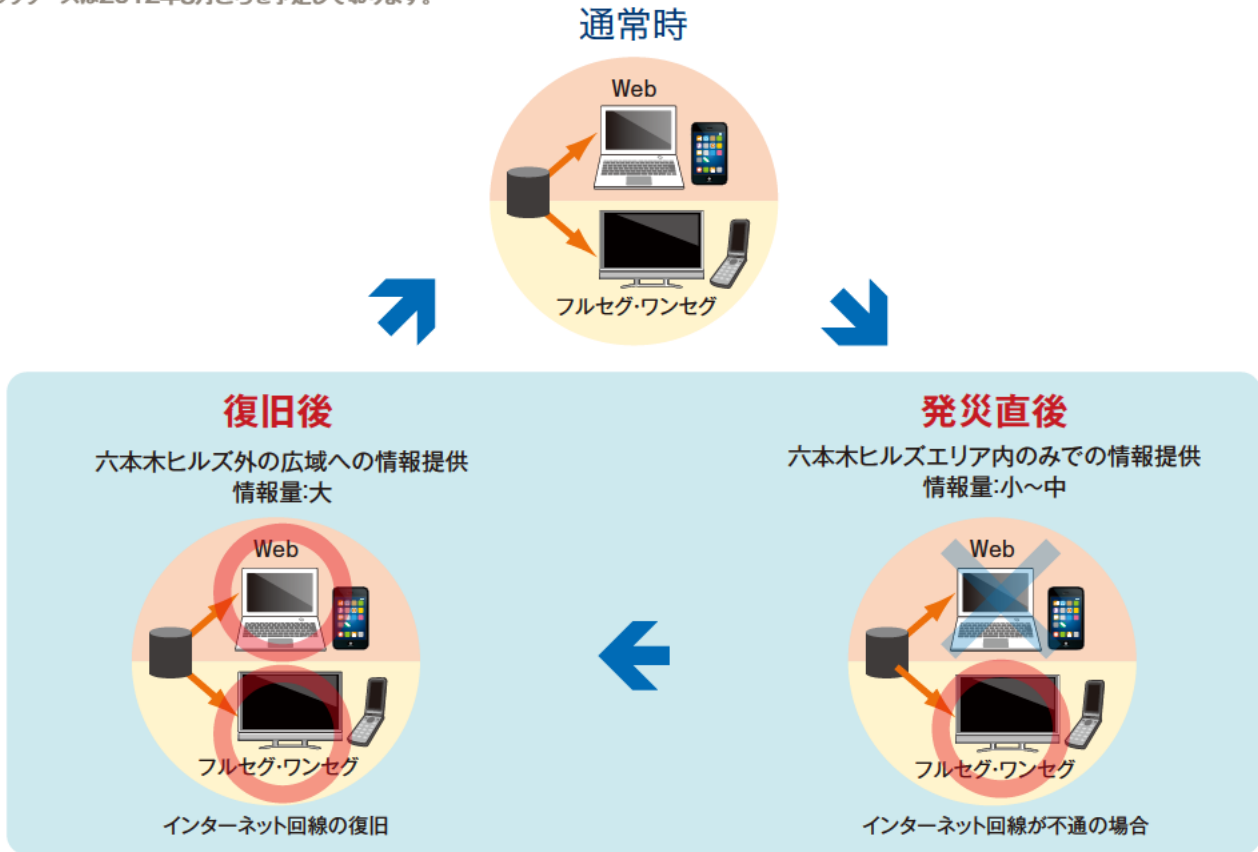
英語対応

外国人の方にも英語で同様な震災情報を提供。

ホワイトスペースを活用したエリア放送(フルセグ・ワンセグ) 六本木ヒルズ 震災放送

■ 災害時の情報提供(例)

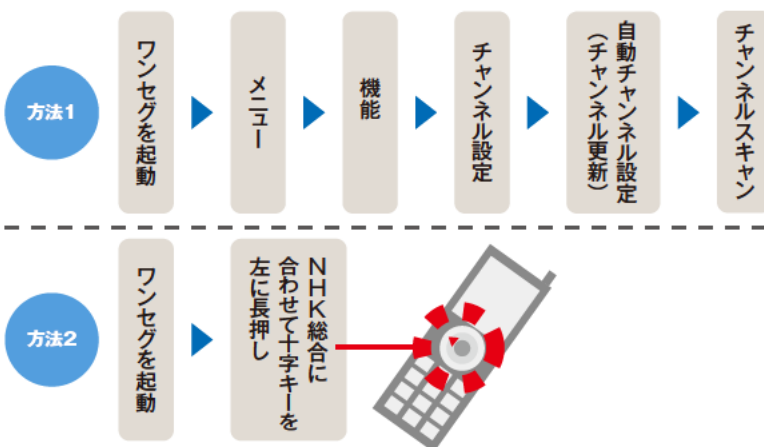
別系統の情報発信形態をとる事で回線の混雑や断線などのトラブルが起きた際にもどちらかが機能してお互いに補完しあいます。
また、フルセグ・ワンセグ放送は来街者向けのデジタルサイネージとして、WEBはエリア外のワーカーや関係者へ向けた安否情報発信サイトとしても機能します。
※WEBのリリースは2012年8月ごろを予定しております。



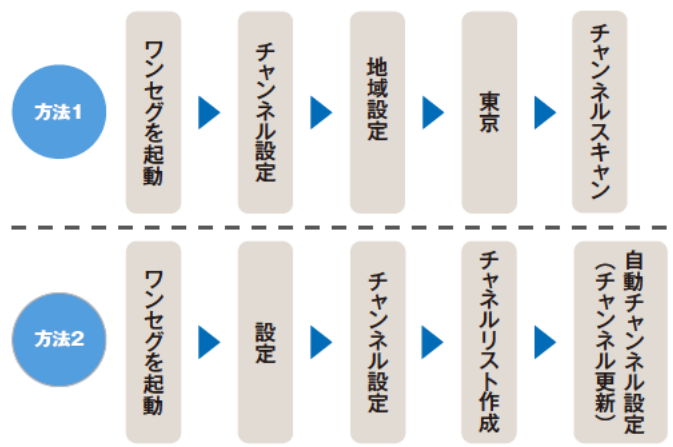
■ ワンセグ放送のチャンネル設定方法

いずれかの方法で設定してください。

携帯電話の場合



スマートフォンの場合



UHF39ch (チャンネル番号11)

※ 携帯電話やスマートフォンの機種や元々のチャンネル設定により、これらの方法では設定できない場合もございます。
2012年4月